

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊田市若宮町四丁目計画	階数	地下0階地上15階
建設地	愛知県豊田市若宮町四丁目6番3、6番4、6番5、9番、10番	構造	RC造
用途地域		平均居住人員	210 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2025年12月5日
敷地面積	1,160 m ²	作成者	井辰かおる
建築面積	473 m ²	確認日	2025年12月5日
延床面積	4,908 m ²	確認者	片山弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

★ ★ ★ ★ ★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 68%
- ③上記+②以外の: 68%
- ④上記+: 68%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">37.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)豊田市若宮町四丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質													3.0
Q1 室内環境													3.8
1 音環境													3.0
1.1 室内騒音レベル													3.0
1.2 遮音													3.0
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
1.3 吸音													3.0
2 温熱環境													4.7
2.1 室温制御													3.0
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
2.2 湿度制御													3.0
2.3 空調方式													3.0
3 光・視環境													3.2
3.1 昼光利用													3.0
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 昼光利用設備													3.0
3.2 グレア対策													3.0
1 昼光制御													3.0
3.3 照度													3.0
3.4 照明制御													3.0
4 空気質環境													3.6
4.1 発生源対策													3.0
1 化学汚染物質													3.0
4.2 換気													3.0
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													3.0
1 CO ₂ の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
Q2 サービス性能													3.2
1 機能性													3.5
1.1 機能性・使いやすさ													3.0
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
1.2 心理性・快適性													3.0
1 広さ感・景観 (天井高)													3.0
2 リフレッシュスペース													3.0
3 内装計画													3.0
1.3 維持管理													3.0
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
2 耐用性・信頼性													3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振													3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													3.0
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
2.4 信頼性													3.0
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.0	3.0	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=-	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.72	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節湯水栓・節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	便器などの衛生器具(大便器)	3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LGS+PB	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		A種押出法ホ°リスチレンフォーム保温板 3種・吹付硬質 ウレタンフォーム A種1H	-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率68%	-	4.2	0.33	-	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	立体駐車場に待機スペースを計画	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 透光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)豊田市若宮町四丁目計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:37.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)豊田市若宮町四丁目計画

計画上の配慮事項	
総合	地球環境負荷の低減に配慮した。
Q1 室内環境	住宅性能評価の断熱等性能4等級取得 F☆☆☆☆建材の採用
Q2 サービス性能	住宅性能評価の劣化等級3相当
Q3 室外環境(敷地内)	植栽等による良好な景観形成 建物の外壁色等の色彩に考慮
LR1 エネルギー	レベル4を超える水準の断熱性能を満たす
LR2 資源・マテリアル	節湯水栓+節水型便器の採用
LR3 敷地外環境	敷地内に駐車施設、駐輪施設を適切に確保
その他	